2020 年度
第 26 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1 スポーツ界が構造的に育ててきた「暴力」という怪物

ホ・ジョンフン

2 スポーツ界自浄機能喪失

「崔スクヒョン」再発防ぐには
政府が乗り出さなければ

3 国家代表出身ソジョンファ

社会離れスポーツだけしてきて
告発で解決できますか？

4 慶州市役所の虚偽報告

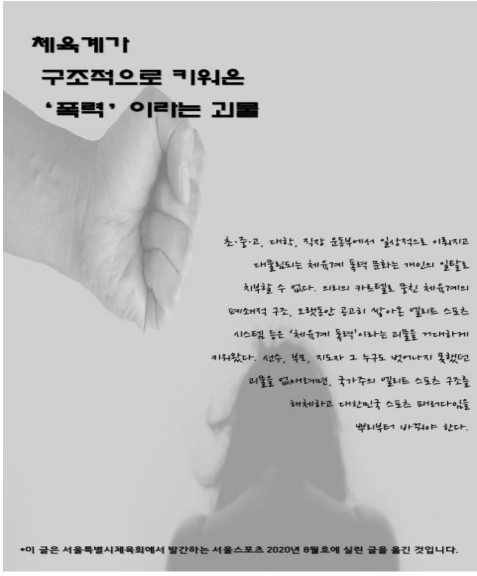
故崔スクヒョン選手死亡後も
虚偽報告書作成と隠蔽試み

5 今週のスポーツ関連記事

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　 TEL 02-2279-8999

体育市民連帯　週刊ブリーフィング　2020 年第 26 号　　2020.8.12

01　スポーツ界が構造的に育ててきた「暴力」という怪物



小・中・高、大学、職場運動部で日常的に行われ受け継がれてきたスポーツ界の暴力文化は個人の逸脱として片付ける事ができない。義理のカルテルで団結したスポーツ界の閉鎖構造、長い間強固に築いてきたエリートスポーツシステムなどは「スポーツ界の暴力」という怪物を巨大に育ててきた。選手、親、指導者、その誰も抜け出せなかったモンスターを取り除くためには、国家主義エリートスポーツの構造を解体して大韓民国スポーツパラダイムを根元から変えなければならない。

この記事は、ソウル特別市体育会が発刊するソウルスポーツ 2020 年 8 月号に掲載された文章を転載したものです。

暴力の日常化と世襲：俺の時代はなぁ～

1980 年代初め軍事政権時代、テコンドー体育特技者として入学したある中学生は一日も欠かさずに訓練し、一日も欠かさずに殴打と元山（ウォンサン）爆撃（頭打ち）を受けた。彼は 1980 年代末の大学生という自由を感じる前に、集合と殴打と悪口が飛び交う逆説的な「知性の象牙の塔（訳注：知性の殿堂）」で体育を専攻することになる。その時は、これを私たちの社会に深く根ざした軍事文化のせいにしていた。

2000 年代半ば、彼が大学生を教えることになったとき、学生選手たちは、まだ暴力的な文化に放置されていたし、運動選手の人権侵害は日常であった。

そのころカン・ジャンホという大学新入生が新入生訓練中に苛酷な行為が原因で死亡し、数年後にある高校野球選手は遺書を残して自分のあどけない生を終えた。そして 2020 年 6 月、職場の運動部でも同じ事件が繰り返されてしまった。

スポーツ界で暴力、性暴力、パワハラと人権侵害は日常的である。2019 年、国家人権委員会のスポーツ人権実態調査の結果で注目すべき点は、小・中・高学生選手はもちろん、大人になって大学生選手、職場の運動選手たちも例外でない被害者だったという点だ。被害を経験した割合は想像以上に高く、毎週、毎日のように頻繁に発生しており、多様かつ広範な形で現れた。

主な加害者は監督とコーチ、先輩選手であり、加害は練習場と合宿所で一度や二度ではなかった。選手たちは報復と不利益を恐れて勇気を出すのが難しく、たとえ勇気を出したとしても責任ある人々は加害者側に立っていた。

20 年前にもそうだったし、10 年前と変わってもいなかった。今、古い軍事文化のせいにできなくなった事は、軍隊さえ変わったからである。

一部の体育人が「自分の時代はもっとやっていた」と取り出しかかる「俺の時代は～」は、もう言うべきでも聞くべきでもないし慰めにもならない。彼らは幇助者か同調者のどちらかであるからである。

そして私たちは彼らの中にいるかもしれない。

根本的な原因は、再度言うが、スポーツ界の構造的な問題

スポーツ界の暴力的な文化と人権侵害は閉鎖構造に起因する。島に閉じ込められた運動部は監督、市・道体育会、連盟などにつながる「一緒に酒飲んで兄貴、兄弟と言ってつき合っていく義理のカルテルの中」でぐるぐる回る。情報提供があり問題が浮上してもツキの無い者だけしっぽ切りとなる。

加害者は嵐が通り過ぎるとすぐに復帰したり、他の場所にあらわれたりする。

例えば、障害者体育会から暴力で除名されて大韓体育会水泳連盟の指導者として復帰をしたとか、陸上でも同様の事例があったという事実は、メディアで簡単に見つけることができる。スポーツ界の性暴力などを犯した犯罪者 15 名は学校で運動部の指導者として堂々と働いていて監査院に摘発された。閉鎖的構造が彼らを作り、彼らはその閉鎖的な構造をより強固に築いた。

スポーツ界の暴力と人権侵害は一人の個人の逸脱で生じた問題ではない。長い間強固に積み上げたエリートスポーツシステムが作った怪物である。メダル競争、体制誇示、国威宣揚の国家主義エリート体育政策が生み、年金や軍免除、特技入学などの栄養を与え、万分の一もできない成功だけを追うような錯覚を植えつけて生き延びてきた怪物だ。

選手たちはメダルを取ってこそ年金と軍免除を得ることができ、成績を出してこそ上級学校に進学する。ここまで来れば、親は暴力と性暴力の痛みに耐えて地獄のような仕掛けを使うしかない。報復と不利益を恐れて何事も無かったかのように我慢するのも事実である。監督には優勝とメダルが成果指標であり、そこに再契約が成立するかどうかがかかっているので多大なストレスが掛かる。

スポーツ科学と暖かいリーダーシップに導くように求めることが暇人の弁舌に聞こえるのに十分である。

決して合理化することはできないが、暴力とパワハラなど人権侵害の加害者としてほぼ半分を超える指導者が指摘された理由、すなわち体育界の指導者が加害者または潜在的な加害者となる根本的な原因は、この怪物のような構造の中にある。

選手、両親、指導者は誰も抜け出せない怪物、国家主義エリートスポーツの構造を解体しなければならず、大韓民国スポーツパラダイムを根本的に変えなければならない。

古い枠を取り除いてスポーツ文化が先進国である国に U ターンし、学校体育と生活体育、エリート体育の好循環とスポーツクラブ活性化がその道である。スポーツ強国から抜け出しスポーツ文化先進国に進まなければならない。スポーツ界と市民社会に既に投げかけられてきた話題だ。

このような話でもしようとすればすぐに国民が愛したスター選手たちが出てきて、または彼らを立てて「エリートスポーツ殺し」というフレームを重ね塗りする。張本人は他でもない大韓体育会と市・道体育会、各種目別連盟または協会などである。

国民の税金 4000 億ウォンを使う大韓体育会と国家体育予算の三倍ほどの 4 兆ウォンを超える市民の税金を使う市・道体育会は大韓民国スポーツの変化要求に応えなければならない。オリンピックと国際的なスポーツ外交業務は大韓オリンピック委員会（KOC）に分離し、大韓体育会は学校・生活・エリート体育の好循環とスポーツクラブの活性化、スポーツによる健康で幸せな大韓民国のために目的を正し目標を修正しなければならない。

毎年開く国体のようなエリートスポーツの競争システムは 3〜4 年ごとに変えて開催し、代わりに全年齢種目別スポーツクラブ大会は市・道を循環し、市民の準備と参加によって開催してもよい。

エリート競争中心、メダル中心、成績中心から市民参加中心に市・道体育会が追求する価値も変わらなければならない。

今という時代なのに、金を払って選手を売買する消耗的な競争システムのために市民の税金を無駄にしなければならないのか。市・道体育会のすべてのエネルギーを国体と道民体育大会などに全て使うのではなく、日常的、大衆的に市民が参加するスポーツ事業が主になるように体育会統合精神を見つけなければならない。これはエリートスポーツ政策を廃棄するのではなく底辺の選手たちもいない不人気エリート種目まで生かすスポーツ界の構造改革であることに気づかなければならない。
既得権と古いカルテルで固めている旧態の人々と、彼らが支えている古いエリート中心のスポーツの構造は、暴力、性暴力、パワハラ、人権侵害を絶えず再生産し続ける怪物であることを忘れてはならない。

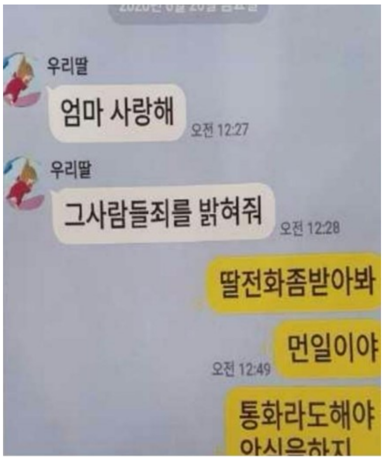
この文を書いたホ・ジョンフンは「スポーツ選手の自己管理」をテーマに、スポーツ心理学の博士号を取得した後、現在中央大学スポーツ科学部で講義している。体育市民連帯共同代表とソウル市体育会学校体育委員長、韓国大学スポーツ協議会執行委員として活動している。

02　韓国日報　2020.8.5

【　″スポーツ界自浄機能喪失...
″崔スクヒョン″再発防ぐには政府が乗り出して改めなければ　】

「崔スクヒョン選手のニュースで数日夜も寝られなかったです。スポーツ界は自ら事態を解決する自浄機能を喪失したようです。」
文化体育観光部傘下のスポーツ革新委員会（革新委）委員長を務めたムン・ギョンナンスポーツ人権研究所代表にとってこの数週間は地獄のような時間だった。昨年「ショートトラックミートゥー」事件で明らかになったスポーツ界の暴力慣行と性暴力を防ぐために1年間、革新委員が昼夜膝をつき合わせたが、今回は20代前半の崔選手が花を咲かせることもできないまま自分の生を終えたことを見守ったからだ。
革新委は7回の勧告、52の課題を発掘したが、スポーツ界の反発で成果を出せないまま今年1月に活動を終えた。この過程でスポーツ界自ら膿んだ部位を取り除く見込みがないという点を切実に悟った彼は4月、スポーツ人権研究所を作り革新のために再び腕をまくった。
先月27日、ソウル永登浦区のオフィスで会ったムン代表は「（崔選手の死は）今本当に変えなければならないと、若い選手が私たちの社会に投げた最後の警告状」だと強調した。彼は「国家が痛烈に反省して、韓国社会でスポーツの意味とビジョンを再確立するところまで進まなければならない」と述べた。
ジャーナリスト出身のムン代表は2008年に国家人権委員会常任委員に委嘱され、人権活動家に変身した。人権委は国家保安法と死刑廃止などを推進すると同時に、スポーツ界の人権問題を水面上に引き上げた人がまさにムン代表だった。全国中・高等学校の学生選手の実態調査、スポーツ人権ガイドライン憲章発表などを主導した。
専門性を認められ、昨年2月の革新委員長に選任され、「運動部合宿所廃止」や「平日大会禁止」など革新的勧告を出したが、毎回スポーツ界から「現場を知らない非体育の主張」という皮肉を聞いたりしました。

特に 2 次勧告とき五輪金メダリストなど選手出身の有名スポーツ界関係者が率先してムン代表の改革案を公開反対した。ムン代表は「革新委改革案は単に『改善案』だったら抵抗が大きくなかった」とし「しかし、最初から最後まで変える『革新』だったので批判ではなく非難を受けるのが常であった」と伝えた。



故崔スクヒョン選手が死亡した当日、母に送った最後のカカオトーク内容。SNS キャプチャ

「お母さん、愛してる」午前 12:27

「あの人たちの罪を明らかにして」午前 12:28

「娘、電話に出て」

「どうしたの？」

「話でもすれば...」

このような「スポーツ界カルテル」が決定的節目ごとに革新を座礁させたので、各種暴行と性暴力事件が繰り返されてもスポーツ界の膿んだ慣行が繰り返されたというのがムン代表の分析だ。

△被害者を保護するファイリングシステム不在△黙認して責任を回避する人的カルテル△成績を最優先目標とした国家的ビジョンのせいで加害者の「尻尾切り」のみあっただけで、システムそのものの手直しは、いつも後回しにされたという話しだ。彼は「スポーツ界のように 30 年以上の人権蹂躙が日常的に起こるところはない」とし「成績至上主義による抑圧的な雰囲気、堪えてこそ実力が上がるという非科学的信仰、不満を表現しにくい閉鎖的構造を全て破らなければならない」と主張した。

ムン代表は 5 日に発足したスポーツ不正専任機構「スポーツ倫理センター」についても懸念と要請の声を伝えた。新しい機構が設置できていても選手たちの信頼を受けられない以上、既存の大韓体育会の組織と大きく異なることがないという話だ。ムン代表は「新センターは 365 日 24 時間、選手たちが申告して助けを得ることができなければならず、文体部長官に直接報告するところになければならない」とし「児童福祉法のように人権侵害の発見時に申告を義務化することも選択肢になる」と述べた。

[著作権韓国日報]スポーツ革新委員会委員長を務め、現在故崔スクヒョン事件共同対策委員会代表であるムン・ギョンナンスポーツ人権研究所代表が先月 27 日午後、ソウル永登浦区のオフィスで本紙とのインタビューをしている。

李ハンホ記者

*出典：https://www.hankookilbo.com/News/Read/A2020080410010003912

03　韓国日報　2020.8.8

【 ″社会離れて運動だけしてきて...告発で解決できますか？″ 】

前モーグル代表選手ソ・ジョンファ（30）さんは故崔スクヒョン選手が極端な選択をする過程をつぶさに見て「やはり」と思った。暴言・暴行する指導者、告発すら容易ではない現実、適切に行われない後処理の

せいで絶望感を感じる被害者まで。非常識な状況が常識のように固まってしまったスポーツ界の姿は 10 年前と変わらなかった。

前モーグル国家代表選手ソ・ジョンファ氏が 7 日、韓国日報とのインタビューで、開かれたスポーツ界について強調している。

オ・ジヘ記者

ソさんは 7 日、韓国日報とのインタビューで「今回の事件に報道で接しながら何から何まで予想を逸脱しないので鳥肌が立った」とし「10 年前も今もスポーツ界の人権実態は大きな変化がない」と指摘した。 12 年間国家代表選手として活躍したソさんは昨年、文化体育観光部スポーツ革新委員会で委員として活動して勧告を作成するために参加した。今は選手たちの人権蹂躙問題や構造的な弊害を解決するために、国内のロースクールに進学して法を勉強している。

故崔スクヒョン選手を含めてチーム所属選手を暴行した疑いを受けている慶尚北道慶州市役所トライアスロンチーム金ギュボン（中央）監督が先月 21 日、拘束前令状実質審査を終えた後、警察と一緒に大邱地方裁判所を出たところ。

大邱=ニュース 1

ソさんが考える今回の事件の最大の原因は「孤立したスポーツ界」にある。幼い頃から学校生活は先送りしたままスポーツだけに集中しなければならい「運動選手だけの世界」に閉じ込められるという事。ソさんは「スポーツ界は他の分野に比べて孤立性が高い」とし、「エリートスポーツ選手になるために学業などの他の生活はあきらめなければならず、人生のすべてを捧げなければならない」と説明した。

特に、他の社会と交流できる機会である学校生活は始めから遮断される。ソさんは「勉強をしながら運動選手生活を一緒にすることができないと考えていることが多い」とし「私も高校の時、合宿生活をしなければ国家代表を放棄する覚書を書けという強要を受けた」とした。

しかしソさんはこれに屈せず、ソウル外国語高校英語科、アメリカ南カリフォルニア大（USC）東アジア学科に通いながら選手生活を並行した。運動と学業が別個のものではないという点を証明して見せたかったからである。暴力・暴言も正当化される。成績とメダルなどの結果だけに集中するからである。彼女は「韓国でエリート選手の目的はオリンピック出場、国威宣揚に置くため、一人一人の人権は副次的な要素になる」とし「指導者たちは暴力・暴言などが成績を上げるに効果が良いという理由で正当化する」と指摘した。

故崔スクヒョン選手の同僚選手たちと李ヨン議員ら未来統合党議員が先月 7 日、ソウル汝矣島国会疎通管で故崔スクヒョン選手死亡事件と関連し、被害実態を明らかにする記者会見をしている。

聯合ニュース

暴力などの問題を申告する場合は、これまでのすべてを捧げてきた「選手生活」を失う可能性が大きい。ソさんは「エリート選手たちは運動以外の選択肢がない」とし「申告が自分の選手生活だけではなく、ひどい場合、チーム解散までもたらされることがあるが、これは自分自身と仲間たちの人生のすべてを根こそぎ奪われること同じだ」と説明した。被害者がより大きな被害を甘受しなければならないのが現実だとのこと。調査・処罰を通じた抜本塞源（ばっぽんそくげん）（訳注：害悪をなくすために根本に遡って処理すること）も言葉だけであり、選手たちは挫折感だけを学習する。ソさんは「崔選手が死ぬ前に大韓体育会から電話を受け『はい分かりました』という録音を聞いた」とし「すべてを下に置いた感じを受けたが、この時感じた挫折感が彼女を死に追い込んだようだ」と言った。

ソさんは、だから「開かれた体育」が最も必要だと主張する。選手たちが運動だけしてメダルのためだけに孤立し生きる道を強要されてはならないということ。多様な社会に接することができる学校生活を強調することでもある。ソさんは「エリート選手たちも他の分野で活動できるということを示したいという点も、ロースクール進学に影響を与えた」とし「競争で勝利しメダルを取ることだけが価値があるという考えを破って、運動の楽しさや協同･協業など多様なスポーツの価値を自ら感じてほしい」と願いを表わした。

*出典：https://m.hankookilbo.com/News/Read/A2020080609530003852

04 SBS NEWS 2020.8.8

【 ［単独］'崔スクヒョン事件'虚偽報告...死亡後も継続隠蔽 】

〈アンカー〉

スポーツ界の暴力事件被害者には物理的な苦痛も大変だが、何よりも皆知っていながら、もみ消そうとする旧態依然の慣行が耐えがたい苦痛です。故崔スクヒョン選手も生前、何度も陳情書と訴状を出したが慶州市役所が虚偽報告書で対応してきたことが確認されました。チョン・ミョンウォン記者です。

〈記者〉

故崔スクヒョン選手が最初の陳情書を出した後、3 月に慶州市役所が作成した苦情調査結果報告書です。崔選手をはじめ慶州市役所チームにいた選手 5 人と通話した結果、「暴行は大きくなく、いじめ程度だけだった」という内容です。

［慶州市役所関係者（報告書作成）：私が今回電話した陳述書の内容を作成し、それを要約して、それで作成をしたんです。］

この報告書は慶州市はもちろん、トライアスロン協会と大韓体育会などが事案を判断するために基礎資料の役割にもなりました。ところが報告書では崔選手の被害事実を一貫して証言してきた選手 2 人が監督の暴言、暴行はなかったし、主将選手の暴行も 1 年に 3 回だけだと言ったと記録されています。しかし、二人の選手はそのような陳述をしたことがなく、当時慶州市役所と通話したこともないと明らかにしました。

[前慶州市役所チーム選手 A さん：私がそのように陳述したことはないと思います。]

[前慶州市役所チーム選手 B さん：私は慶州市役所と通話した記憶がありません。 （これは本当ですか？1 年に 3 回？）1 日 3 回ではないですか？胸を殴ったり頭を叩いたりは自分の気持ちが良くなければ運動を言い訳に殴ったり、常にそのように叩かれて生活しました。（この時このように通話したことがないということじゃないですか。そうですよね？）はい。（内容も合ってない？）はい。]

崔選手が死亡した後も慶州市役所や協会などは、引き続き事件を縮小しようとしました。先月 2 日に行われた慶州市役所運営委議事録です。加害者たちを呼んでおいては暴行の事実は詳しく聞くこともせず崔選手の

心理状態を問題視しました。さらに慶州市体育会長は普段崔選手に精神的な問題があり習慣的に嘘をついたように見られると判断しました。

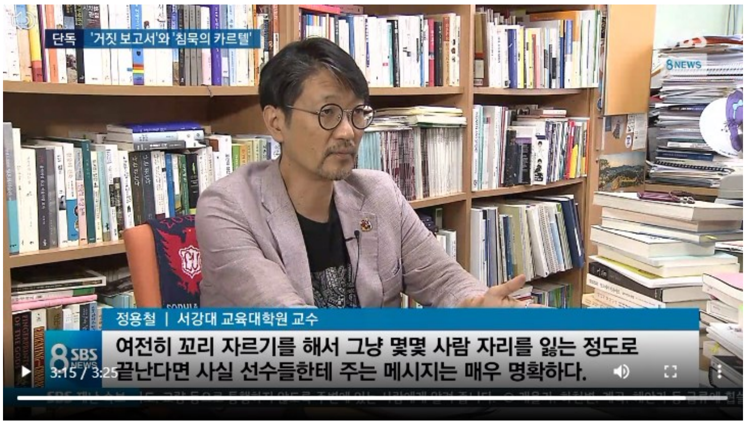
【カン・フイチャン/前トライアスロン選手：連盟の関係者と今の監督同士の利害関係が全部あります。不快に思い、より無視するだろうし、もっと隠蔽しようとすると思います。］

昨年 1 月の趙ジェボムコーチ性暴力事件の後、大統領の指示で官民合同のスポーツ革新委が構成されました。革新委は暴力事件の発生時に米国のように関連するスポーツ団体を排除する排他的調査権と懲戒権を調査機関に与えることを勧告しました。長年の慣行であるスポーツ界沈黙のカルテルを壊せという注文だったが、この勧告は無視されました。

［ムン・ギョンナン/前スポーツ革新委員長：そのカルテルの鎖を切断しなければ、私は真相究明もできないし、今後もまた、第 2、第 3 の事件を防ぐことができない。］

暴力の根本的な原因がエリート体育中心の育成方式であるとして政府の対策が出て 1 年半。しかし、その後スポーツ界の反発で変わった事は一つもなかったし、進路に絶対的な力を持つ指導者の暴力にも選手たちは沈黙するしかない構造です。

【ジョン・ヨンチョル/西江大教育大学院教授：いまだに尻尾切りをして、ただ何人かの席を失うほどで終わったら、実際に選手たちに与えるメッセージは非常に明確だ。(申告）してもだめだし、今後もこのような事はしない。それがもっと怖い事でしょう。】



*出典：https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1005921582

05 【　今週のスポーツ関連記事　】

「故崔スクヒョン選手苛酷な行為」チャン・ユンジョン前主将、結局拘束

https://www.donga.com/news/Society/article/all/20200805/102317426/1

「崔スクヒョン法で生きて帰ってきた」慶州市役所トライアスロン故崔スクヒョン選手

http://m.gbpolitics.com/view.php?idx=215490

[単独] '主将先輩脅迫で'... 1 年に携帯電話 3 回変えた崔スクヒョン同僚

https://www.sedaily.com/NewsVIew/1Z6HJKV7SW

崔スクヒョン選手が残した宿題

https://www.sisain.co.kr/news/articleView.html?idxno=42608

時が来れば繰り返される人権委員会スポーツ界調査...今度は「第 2 の崔スクヒョン」防げるか

https://www.sedaily.com/NewsVIew/1Z6H2ZNX46

崔スクヒョンに続いて高ユミンまで...チーム離脱と死、なぜ繰り返されるのか[スハンウィークリー]

http://sports.hankooki.com/lpage/moresports/202008/sp20200808060010145210.htm

「それより怖い」スポーツ暴力の不気味な予見

http://star.ohmynews.com/NWS_Web/OhmyStar/at_pg.aspx?CNTN_CD=A0002665237

「毎日倉庫で監督が暴行」...障害者スポーツ界にも「崔スクヒョン」

http://mnews.jtbc.joins.com/News/Article.aspx?news_id=NB11963216

高ユミン選手の死、その後ろに潜む「悪質な書き込み」

http://www.hani.co.kr/arti/PRINT/956409.html

「足でしても君より上手」誹謗中傷の痛み込めた故高ユミン選手インタビュー公開

https://biz.chosun.com/site/data/html_dir/2020/08/05/2020080502407.html

「ミスすると睨みつけるスタッフ、萎縮するしか」...故高ユミン日記公開

https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01312006625863712&mediaCodeNo=E

高ユミン母親「娘を最も苦しめたのは"任意脱退の足かせ"...悪質な書き込みではない」

http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0014876026&code=61121111&cp=nv

スポーツニュースコメントサービス、ネイバーとカカオ「暫定中断」

https://www.donga.com/news/article/all/20200808/102350792/1

[コラム]死まで呼んだスポーツ悪性コメント、実名制導入する時だ

https://www.nocutnews.co.kr/news/5390218

ユ・スンミン IOC 委員、スポーツニュースコメントサービス禁止法案の発議要請

http://www.kstnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=7220

体育人の人権保護強化、「国民体育振興法」改正案の国会通過

http://m.fnewstv.com/news/newsview.php?ncode=1065594939084730

INFOMATION

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/

日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com